

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

令和5年3月
頌栄短期大学

頌栄短期大学 教職課程認定学科一覧

保育科
専攻科保育学専攻

全体評価

学校法人頌栄保育学院頌栄短期大学は、明治 22 (1889) 年に頌栄保姆伝習所として開設された。明治 19 (1886) 年に神戸基督教会婦人会が幼稚園創立を提案したことを受け、翌年アメリカン・ボードの教育宣教師として来日したアニー・L・ハウが、優れた保姆養成の重要性を痛感し、頌栄幼稚園の開園に先立って開校した。

爾来、幼稚園と保姆伝習所が隣接する形で保育の歴史を刻み、昭和 25 (1950) 年に頌栄短期大学に改称して保育科を設置、昭和 33 (1958) 年に 1 年制で設置された専攻科は平成 12 (2000) 年に 2 年制となって大学評価・学位授与機構認定 2 年制専攻科となった。令和 5 (2023) 年に 134 周年を迎え、保育者として送り出した卒業生は 9000 人以上にのぼっている。

保育科は 2 年課程で幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を、専攻科では幼稚園教諭一種免許状を取得するためのカリキュラムがそれぞれ編成されている。教育編成においては、建学の精神に基づいた学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、その目標を達成するため、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、科目を配置している。キリスト教精神に基づいた人間性を身につけた保育者を養成するため、本学の独自科目として、「キリスト教学」や「キリスト教保育」を、本学の歴史と伝統に関する学びを通して幼児教育の歩みや子どもの最善の利益についての理解を深めるために「頌栄学」等の科目を開講している。

教職課程を司る部署として、カリキュラム委員会を組織している。委員長は学長が担い、事務長のほか、教務部、自己点検・評価委員会、専攻科会議の担当で構成している。カリキュラム委員会規程をふまえ、教職課程の改善および円滑な運営を図り、課程認定の申請、教務部との連携において教職課程の教員配置の管理、カリキュラム改善のための FD 研修会の内容立案などを行っている。

本学入学者の保育職への希望は毎年 9 割を超えており、教職課程での学びを経て、ほぼすべての学生が幼稚園免許状を取得し、卒業後は神戸市、明石市、加古川市をはじめ、各地の保育現場に就職している。卒業生の現場率が高く、全国に広がる同窓生のネットワークにより、学生のキャリア形成の重要な資源となっており、質の高い保育の実現のための支えとして多様な交流を行っている。卒業生には保育施設の園長や主幹として勤務する者も多いことから、短大と現場との連携をさらに深め、リカレント教育プログラムの構想に注力していきたい。

歴史や伝統を大切に守りつつ、隣接する幼稚園との連携をさらに深め、新たな取り組みや地域連携事業の展開を通して「頌栄の保育」「頌栄の教育」を発信していきたい。

頌栄短期大学

学長 関田 良

目次

I 教職課程の現況及び特色	1
II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	9
III 総合評価	13
IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	14
V 現況基礎データ一覧	15

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：頌栄短期大学保育科・専攻科
- (2) 所在地：兵庫県神戸市東灘区御影山手1丁目18-1
- (3) 学生数及び教員数（令和5年3月31日現在）
 - (ア) 学生数：保育科196名 専攻科18名
 - (イ) 教職課程教員数：保育科10名 専攻科4名

2 特色

頌栄短期大学は建学の精神「神をわれらの主とあがめ、神の子イエス・キリストをわれらの救い主とする信仰に立ち、創設者アニー・L・ハウがもっとも信奉したフレーベルの教育理念を乳幼児の保育に生かした教育・研究・実践を通して、広く神と人ともに仕える」を基盤とし、広く学術を研究教授し、高度な専門性を有する人間性豊かな保育者を養成している。保育者に必要な価値観、知識、技術を身につけ、変化する社会情勢に対応できる豊かな人間理解の態度と能力を兼ね備えた人材の育成を目指している。

1889年に設立された前身の頌栄保姆伝習所は、現存する日本のキリスト教主義保育者養成機関の最も古いもので、本学は伝統を継承しながら進展に努め、神戸を中心に、日本全国に保育者を送り出してきた。卒業時には保育科では幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得を、専攻科保育学専攻（以下、専攻科という）では幼稚園教諭一種免許状の取得をし、毎年卒業生の9割以上が保育職に就労している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

<現状>

頌栄短期大学保育科・専攻科は、建学の精神及び教育理念に基づき、以下の通りディプロマ・ポリシーを定めている。

保育科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 愛をもって子どもに接し、保育者に求められる基礎的教養と専門的知識を身につけている。
2. 子どもの成長・発達について理解し、専門的知識および技術をもって保育を実践することができる。
3. 自らの考えを的確に伝え、多様性を尊重しながら他者と協働することができる。
4. 子どもや家族をめぐる諸課題に関心を向け、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。

専攻科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 愛をもって子どもに接し、保育者に求められる専門的知識と技術を身につけている。
2. 子どもの成長・発達について理解し、適切な保育内容・方法を活用しながら一人ひとりに即した援助を実践することができる。
3. 地域社会の一員としての役割を自覚し、多様性を尊重しながら他者と協働することができる。
4. 主体的・協働的な探究活動を通して、子どもや家族をめぐる諸課題の解決に向けて行動する力を育み、生涯にわたって保育の発展に貢献することができる。

これらを踏まえた教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、教育職員免許法及び保育士養成課程に則り、カリキュラム編成を行っている。保育科・専攻科の教職課程教育の目的・目標はこれに内包される。保育科・専攻科共に、各教科はナンバリングし履修系統図として示し、カリキュラム・ツリーにおいて、教職課程科目の全体での位置づけを表している。これらは、学生便覧の教務関連ページに記載し、在学生及び教職員が共有し、FD活動の一つとして毎年実施する非常勤講師懇談会において周知を図っている。また、学生が学修成果を確認する機会として重視される教育実習や保育実習については、実習担当教員のみならず、専任教員全員が実習先への訪問指導、事後面談指導等に携わることなどを通し、教職課程教育の意義を共有し、その改善についても検討を重ねている。

短大（機関）レベルでは学位授与数や進路状況、卒業時アンケート、学科（教育課程）レベルでは幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得状況やGPAの活用、単位取得状況等、科目レベルでは授業評価アンケートや教職課程の履修カルテ等において、学修成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。

査定の手法の定期的な点検に関しては、授業評価アンケートや卒業時アンケート等の各種アンケートを自己点検・評価委員会において振り返り、課題等の意見交換を行い、点検をしている。

短大（機関）レベル・学科（教育課程）レベルでは、毎年度卒業直前の2年生対象に学修成果を含めて幅広い内容で実施する卒業時アンケートや、卒業後2ヶ月程度の卒業生対象で主に就職後の状況を尋ねる新卒業生アンケートによって、在校生・卒業生の視点で、建学の精神やディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の達成度、教育課程への満足度等を把握し、結果を教職員全体で共有している。また、科目レベルにおいては、授業科目担当者が授業計画・授業内容（シラバス）に各授業科目の評価の方法と評価基準を作成し、それを第三者がチェックする仕組みを取り入れているほか、学生の試験結果や授業評価アンケートをもとに授業の改善を行っている。この他にも様々な形で、教育の向上・充実のためのPDCAサイクルを活用している。

<長所・特色>

保育の単科短期大学である本学は、創設以来、共に歴史を刻んできた頌栄幼稚園がキャンパス内に隣接しており、学生が学生生活の中で日々幼稚園の子どもたちの姿に触れることができる。小規模ながら保育について自然に意識を高めることができる環境にあり、学生の保育・教育職への志を養っていくことを支えている。建学の精神および教育理念に基づいたキリスト教必修科目を卒業必修単位として、人間の尊厳性を学び、豊かな人間性を育む学びの基底を形成している。独自科目の「頌栄学」は、建学の精神に関するフレーベルやアニー・L・ハウについての学びを中心としつつ、人間の尊厳性に関わる様々なテーマを取り上げ、保育者として生きるための基盤となる教育に注力している。

保育科には幼稚園教諭二種免許状取得の、専攻科（保育学専攻）には幼稚園教諭一種免許状取得のための教職課程を設置し、幼稚園教諭二種免許状を取得した学生がその学びを土台として、さらに専門性を身につけることができるよう、関連するディプロマ・ポリシーを設定している。専攻科は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により「特例適用専攻科」として認定され、要件を満たすと、学士（教育学）の学位が授与される。

保育科に在籍したのち、保育職に就くことのほか、資格・免許を取得してさらに専攻科に進学するか、進路について柔軟に検討できることも特色の一つとなっている。

<課題>

上述の通り、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた教職課程教育の目的・目標を共有しているが、学生への周知をさらに図り、学修成果の可視化の取り組みをより一層積極的に行うことができるよう、アセスメント・ポリシーの見直しを十分に行うことが課題である。また、保育科と専攻科の教育課程の連携についても、その仕組みの独自性を十分に生かした内容となるよう、検討を重ねていくことが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：頌栄短期大学 2022 年度学生便覧
- ・資料 1-1-2：頌栄短期大学 2022 年度各部・各委員会事業報告書
- ・資料 1-1-3：カリキュラム委員会会議議事録
- ・資料 1-1-4：保育科履修カルテ
- ・資料 1-1-5：授業評価アンケート

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

<現状>

本学保育科および専攻科は、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および現場経験のある教員を適切に配置している。事務局教務課が学科の教育課程および教職課程を統括的に管理している。教員は保育科では担任制のもとできめ細やかに学生支援を行ない、専攻科では、修了研究のゼミ担当者が各学生の支援にあたり、必要に応じて教務課と連携しながら、個々の学生の学修状況の把握や課題に対応する学修支援体制を構えるなど、適切に教職課程を運営している。

教職課程に関する重要な事項を協議し必要な対応にあたるため、「カリキュラム委員会」を設置し、学長、事務長、教務部長を含めた教職員をもって構成している。当該委員会は協議内容に応じて教務部やFD・SD委員会と連携し、教職課程の適正な運営を管理すると同時に学科の教育課程全体での教職課程の位置付けを点検し、ディプロマ・ポリシーに基づく保育者養成を行う体制を整備している。また、保育科では教育実習、専攻科ではインターンシップやフィールドワークなど、理論と実践との適切な融合を図るため、実習委員会や専攻科会議より定期的に情報提供を受けて調整を行っている。

教職課程教育を行う上での施設・設備については、講義室、演習室、情報処理演習室、ピアノレッスン室、ピアノ練習室、図画工作室、調理室、体育館、小体育室等を設置し、各教室にパソコンおよびプロジェクターとスクリーン、DVD再生機等を配備し、多様な授業内容や遠隔授業の提供に資するよう、教務課と総務課で対応・管理している。また、ノートパソコンやロールピアノを貸し出し、学生の修学生生活を支援している。図書館は保育・幼児教育に関連した資料を中心に約112,000冊を備えており、特に絵本、パネルシアターの豊富な蔵書は学生の授業や研究、実習で大いに活用されている。例年、カウンターでは丁寧なレファレンスを行い、新着や推薦図書のコナーを設ける等の支援を行っている。さらに令和3（2021）年度よりインターネットを用いた蔵書検索により、図書館外からの検索を可能にして利用促進を図っている。

そのほか、ICT教育環境として、コミュニケーション型授業支援システムPhollyを用い、学生への連絡、提出課題の添削等を行っている。各教室に一台設置されているコンピュータは、パワーポイントの映写やインターネット接続での情報提供等の形で、複数の授業で活用されている。

<長所・特色>

保育科、専攻科共に、幼稚園のほか、保育所や施設などの現場経験者を専任教員として採用し、配置している。それら専任教員は特に保育内容系科目や「教職・保育実践演習（幼）」などでは経験を活かした質の高い教育を展開しており、学生が保育の専門性について理解を深めるためのよき導き手となっている。また、保育科では1年次後期に「教育・保育基礎実習」を設定し、隣接する幼稚園やグループ園である認定こども園において、十分な観察実習を経験する機会を提供している。その際に記した記録は、実習担当教員が一人ひとりに丁寧な添削を施し、保育職に就くための土台となる力を手厚い指導で培っている。

教職課程の質の向上を図るため、教務部と連携しつつ、単位取得状況、資格免許取得状況、GPA分布、ならびに学年ごとに学生自身が記入する「履修カルテ」等を共有し、点検している。また、保育内容系科目や実習関連科目の担当者を中心に、必要に応じてFD研修会を持ち、授業運営について見直しを図っている。

コロナ禍においても、以前と変わらず保育職への就職希望者の割合は9割以上であり、就職率も100%を保っている。神戸市において、長年、保育者養成を続けて

きた歴史と伝統により、現場からの信頼も厚く、また卒業生の現場率が高いため園長や主幹として勤務する者も数多いことから、現場との連携が教職課程全体の質の向上を支えている。

<課題>

保育者養成の歴史と伝統を基盤に、教職員が綿密に連携し教育の質の向上に取り組んでいるが、施設・設備の老朽化に早急に対応し、学修環境をさらに整え、教育効果を高めていくことが課題である。また、全学的な組織改編と連動し教職課程自己点検評価を実施できるよう、学務関係部署全体でカリキュラムの現状と課題を共有したい。実効性のある取り組みを展開できるよう、特にFD・SD活動に反映される仕組みの整備を検討していきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1：頌栄短期大学カリキュラム委員会規程
- ・資料 1-2-2：実習指導関連資料

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

<現状>

頌栄短期大学は、大学の建学の精神にもとづいたアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を掲げている。このアドミッション・ポリシーは建学の精神と教育目標を理解し、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定めている教育を受けるための条件として設定している。このアドミッション・ポリシーに基づいて、将来、保育者として幼稚園、保育所、認定こども園などで働きを担う志をもつ人材を募集している。

このことは本学 HP や学校案内、募集要項などで公開している。また、高校教員対象の説明会や高校生対象の進学ガイダンス、本学を会場として実施するオープンキャンパスなどを通じて広く伝えている。

入試においては、保育への強い思いを持つ人材を確保するために総合型選抜、推薦入試、一般入試、社会人・学士取得見込み者入試を行っているが、いずれもアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に対応しており、高等学校の学修成果に対応するものとしてリテラシー（国語総合、作文、小論文）および音楽（ピアノ実技、歌唱）、面談・面接、書類審査をもって入学者選抜を行っている。これらの選抜は、それぞれの選考基準を設定し、公正かつ適正に実施している。

<長所・特色>

令和3（2021）年度から、神戸市子ども家庭局幼保振興課と連携し、高校生の段階から深く保育を理解してもらう取り組みを協働して行っている。保育コース等を持つ高等学校の家庭科教員に対し、保育の講義の実施や、探求学習の提案をしている。

本学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）は、オープンキャンパス、高等学校教員対象の説明会、高校ガイダンス、本学公式ホームページ等で明示している。高等学校教員とは、各高等学校のコースや類型等の構成、校風等と本学が求める入学者像についての意見交換を行い、2年間の学びを経てより専門性の高い実践力のある保育者を送り出すために、高大接続の観点から相互理解を深めている。また、入学予定者には、入学前課題（子どもをめぐる記事をテーマとした小論文作成、読譜力を習得することを兼ねたピアノと視唱の練習）を課しており、初年次の学びへ滑らかに接続するよう図っている。

<課題>

18歳人口の減少に加え、保育者を志す高校生が減少している。新型コロナウイルス感染症蔓延による保育の困難さや、保育現場の問題や課題がマイナスイメージとして伝えられていることも要因として考えられる。高校生や保護者、高等学校の教員に対して本学への理解を求めるだけでなく、保育業界全体、あるいは行政や社会の今後の動きについてしっかりと分析し、その上で保育の魅力や重要性を伝えていく必要がある。2022年度に行われた認証評価における実地調査でも、「頌栄の教育」の良さが十分に発信できていないことを課題として指摘された。入試、広報は全学的な課題として取り組む必要があり、そのための体制を整えることが急務である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1 大学案内（2023年度）
- ・資料2-1-2 学生募集要項（2023年度）

- ・資料2-1-3 高校教員対象説明会関連資料
- ・資料2-1-4 入学前課題関連資料

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

<現状>

本学は保育科のみの単科大学であることから、教育課程を通じて入学者のほぼ全員が幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得している。保育職をはじめとするキャリアへの意識向上や免許・資格を活かした就職の斡旋については、進路支援室を中心にグループ担当教員と連携を図りながら、全学で進路支援を行っている。

進路支援室の教職員は日常的に、非常に丁寧に個別の進路相談に応じている。またグループ担当教員も進路支援室教職員と協力し、個人面談、履歴書の添削、模擬面接などを行い、一人一人の学生の希望に沿ったきめ細やかな進路支援を行っている。

進路資料室では、求人票や就職フェア等の案内を掲示し、学生が最新情報に随時アクセスできるようにしている。さらに令和3（2021）年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響で掲示された求人票を自由に閲覧する機会が縮小されることを補完するため、コミュニケーション型授業支援システム Pholly を利用して、Web上で求人票や就職フェアの情報を掲載するようにした。これにより自宅などでも閲覧できるようにし、確実な情報提供を心掛けた。進路資料室では卒業生の受験報告書や過去の求人状況、就職関係書籍等の資料も自由に閲覧できる。進路資料室は、コンピュータ3台の設置により就職情報を検索できる環境があり、2つの小規模な個室設置により落ち着いて相談に応じられる体制も整えている。

令和2（2020）年度よりキャリア形成の基礎力育成科目として「キャリアへのアプローチⅠ」「キャリアへのアプローチⅡ」を開設した。個人情報取り扱い、社会人になるにあたっての職場の人間関係やストレスに向う心構え、社会人、保育者としての基礎的な常識・マナー等の指導、保育職の魅力に関する保育現場で働く卒業生の講演、作文、就職試験対策、模擬試験、模擬面接、履歴書の指導、先輩の就職活動体験談など、進路ガイダンスと授業を補完しあう形で構成し実施している。就職活動を終えた先輩の助言や体験談を聞く「先輩からの進路メッセージ」は、就職活動の流れや試験に向けた準備や対策など、自分なりに採用試験に向けての具体的なイメージを持つきっかけとなっている。

また、進路ガイダンスの授業内容には、公立試験対策などの希望者のみを対象とした内容や、キリスト教主義園内定者へのガイダンスなど本学に特徴的な内容も含まれる。このようにより充実したキャリア教育を保証するため、授業と進路ガイダンスの内容を細やかに構成しているが、毎年、双方の内容を検討し整備している。また、資料として作成し学生に配布している「就職の手引き」を進路支援に活用している。

<長所・特色>

保育現場との関係を深め進路支援にも活かすため、私立の保育施設の各団体と保育者養成校の懇談会等にも積極的に参加している。

学生に向けて自治体単位で開催される保育職の就職フェアについても、積極的に紹介した。また、夏休み期間を中心とした保育ボランティア活動は、より多くの現場体験が適切な進路選択に繋がることも意図して積極的に支援している。

卒業生支援として新卒業生懇談会を毎年7月に実施している。令和4（2022）年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、午前と午後の2回に分けて開催した。新卒業生懇談会の出欠回答を兼ねて送付するアンケート（新卒業生アンケート）およ

び当日の教員らとの懇談で、社会人として働き始めた卒業生の動向や仕事について、また本学での学びへの意見も集約している。結果は、進路ガイダンスの内容検討や、教育課程の見直しに向けた検討に活用されている。

新卒業生の就職先である保育現場全てに教職員が訪問し、訪問記録をとっている。なお、乳幼児研究所が主催で主に卒業生を対象とするセミナー（グローリーオープンカレッジ、頌栄保育セミナー）も、本学の卒業生支援の一環であるが、令和4（2022）年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため実施できなかった。

<課題>

進路支援室を中心とし、実習委員会と連携しつつ学生一人ひとりの教職に対する意識や希望について丁寧に把握することに努めているが、保育職に就いた卒業生のうち、ごく僅かではあるが早期離職者が出ている。現行の進路支援の体制について、PDCA サイクルを回す仕組みを強化し、卒業生と就職先との不適合を回避することが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1 授業計画・授業内容（シラバス）
- ・資料2-2-2 進学ガイダンス予定表
- ・資料2-2-3 「就職の手引き」
- ・資料2-2-4 新卒業生アンケート
- ・資料2-2-5 新卒業生就職園訪問記録

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

<現状>

本学は、幼稚園教諭および保育士の養成を目的とした教育を行っている。キリスト教精神に基づく建学の精神に沿った学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）が示され、豊かな人間性と高い資質・能力を身につけた保育者の育成を目指し、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

保育科は幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得、専攻科は幼稚園教諭一種免許状取得に対応した教育課程を編成している。具体的には、ディプロマ・ポリシーに示した保育者に求められる人間性、保育を実践するための知識および技術、他者との協働性や学び続ける姿勢を育成するため、保育科では「基礎教養科目」と「専門科目」により教育課程が編成され、専攻科では「理論系科目」と「実践系科目」により教育課程が編成されている。保育科の「基礎教養科目」においては、キリスト教関連科目を通じた豊かな人間性の育成と言語・情報系科目を通じた学習・研究に必要な力の育成等を目指している。「専門科目」においては、子どもを理解し、保育に関する知識・技術を身につけ、教育上の諸問題を自ら探究する力の育成を重視している。専攻科では、保育科（またはそれに準じる他機関等）での学びを基盤に、キリスト教、教育・保育・福祉および子どもの心理に対する理解を深めることを目的とした「理論系科目」と、教育の本質をふまえ、指導に必要な技術・技能を高めるための「実践系科目」が配置されている。これら科目の履修にあたっては、授業時間外の予習・復習に充てる学習時間を確保できるよう保育科は年間50単位、専攻科は40単位を履修登録の上限とするCAP制を設けている。

教職課程のカリキュラムは、保育科、専攻科ともコアカリキュラムをふまえて編成している。また、施行規則よりも多く履修させる編成となっている。具体的には、領域および保育内容の指導法に関する科目は、施行規則12単位以上に対し、20単位の修得を求めている。教育の基礎的理解に関する科目は施行規則で6単位だが、12単位を設定している。

カリキュラムの実施にあたっては、講義、演習、実技を含む授業と現場での実習において、理論と実践を往還させながら学びを深めることを重視している。また、カリキュラムの全体像を学生が把握し、主体的に学ぶことができるよう、各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーを対応させたカリキュラムマップと、学修段階と順序を示すカリキュラム・ツリーを作成し、科目のナンバリングも行っている。カリキュラムについては学生便覧やシラバス上で公開し、履修登録時にも説明を行っている。

教育課程およびすべての科目のシラバスはHP上で公開している。また、便覧およびシラバスをコミュニケーション型授業支援システム Pholly 上でも公開し、学生が常時確認できるようにしている。シラバスは学務部（教務課）が作成する「授業計画・授業内容（シラバス）作成要領」に従い、コアカリキュラムに対応したシラバスを作成するよう各科目担当教員への周知徹底を図っている。シラバスには授業の到達目標（目的・ねらい）とディプロマ・ポリシーとの関連、授業外における学習方法（内容・時間）、成績評価の基準、課題（試験・レポート等）のフィードバック方法を明確に記述し、求められる量的・質的学修成果を確認しやすくしている。また、作成されたシラバスは、公開までに教員間での相互チェックを実施している。

ICT機器を活用し、情報活用能力育成に向けた教育に対応するため、保育科では「基礎演習」の中で、パソコン等の情報処理機器およびネットワークの仕組みの基本を学ぶことを必修としている。専攻科では「ICT教育演習」において、統計処理やデータ

に関する科学的思考を修得し、卒業論文作成へと繋げている。他にも、保育科では情報機器に関する科目として、「保育と情報」を幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目としている。また、保育科・専攻科とも、保育内容の指導法に関する科目および教育の方法と技術に関する科目の中で、ICTの活用に関する学修の機会を設けている。

アクティブラーニングに関しては、保育内容の指導法に関する科目と教育実践にかかわる科目のなかで教材研究や指導計画の立案、模擬保育を行っている。特に、教育実践にかかわる「教育実習事前事後指導」と「教職・保育実践演習（幼）」においては、グループディスカッションやグループ討議も多く取り入れ、一人ひとりの子ども観や教育・保育観を共有しながら主体的に学び合い、実践力を高められるよう留意している。専攻科は少人数制のため、学生主体の授業が多くを占め、ディスカッションや討議も活発に行われている。

教育実習を履修するために必要な要件は、「頌栄短期大学実習に関する内規」によって定められている。教育実習の履修にあたっては、教職（保育職）に就く熱意を持ち、実習事前事後指導をはじめ実習に関する授業にすべて出席し、課題に怠りなく取り組むこと等を基本条件としている。そのため、事前事後指導への欠席が3分の1を超える場合や学期末の再試験該当科目と単位不認定科目が6科目以上になる場合、実習の基礎科目である1年次の「教育・保育基礎実習」および「教育・保育基礎実習事前事後指導」の単位を修得できない場合は、教育実習の履修が認められない。また、領域および保育内容の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学修の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち一部の科目を、教育実習の履修要件科目として設定している。

履修カルテについては、「教職・保育実践演習（幼）」において、保育科1年次前後期、保育科2年次前後期の成績を踏まえて計4回記入するよう指導し、教員によるフィードバックも実施している。また、保育科では「実習での成長シート」を用い、実習ごとに目標の設定と振り返りを行うことを通し、学生の成長と課題を定期的に確認している。

<長所・特色>

キリスト教精神を土台に、保育者に求められる豊かな人間性と高い専門性を身につけられるよう、理論と実践の往還を重視した教育課程を編成している。特に保育・幼児教育にかかわる専門科目においては、子ども理解を中心に据えた知識および技術の習得と、教育上の諸課題の解決に向け、主体的に取り組む姿勢の育成を重視している。

指導法や教育実践を学ぶ科目を含め、授業ではグループディスカッションや討議を積極的に取り入れ、多様な意見や考えにふれながら、自己の保育観・教育観を確立していくことを目指している。

<課題>

情報化社会に対応するため、ICT機器を活用した学修の機会を提供することに力を入れているが、学内のWi-Fi環境の充実と学生が使用できるコンピュータおよびタブレットの整備に課題が残っている。また、履修カルテや「実習での成長シート」など、学修成果の評価を教育の質保証や質向上と結びつけるための取り組みについても、さらに検討を重ねていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1 頌栄短期大学実習に関する内規

・資料3-1-2 「実習での成長シート」

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

＜現状＞

教師としての実践的指導力の育成において、本学では教育実習以外にも学生が保育者としての姿勢を身につけ、現場での体験的な学びの機会を積極的に設けている。

まず、保育科1年次後期には、実習の基礎科目である「教育・保育基礎実習」において、隣接する頌栄幼稚園で5回、系列の認定こども園で4回の計9回にわたる観察実習を実施している。観察実習においては、環境構成と子どもの活動、保育者の援助を記録し、教員からの個別添削指導や学生同士のディスカッションを通し、子どもを観る目を培うことを目指す。また、観察時には毎回、園の教諭から子どもの遊びや行事等に関する説明を受け、質疑応答を含む振り返りの時間も設けている。

本学の教育実習の特長として、2年次の4月初旬に1週間、9～10月に3週間の2回に実習を行っていることが挙げられる。4月の実習では年度初めの環境づくりや準備に携わり、9～10月の実習では4月に出会った子ども達の成長に触れながら、発達に即した指導計画の立案と実践を行う。実習は頌栄幼稚園をはじめ本学と関係の深い私立幼稚園で実施しており、公立園での実習に際しては教育委員会とも連携を図っている。

幼稚園教諭二種免許状を取得している専攻科の学生は、「保育実践学習」で幼稚園と保育所でのインターンシップに参加し、幼稚園教諭一種免許状の取得に向け実践力を磨いている。また、各自が記した子どもに関するエピソード記録をもとに討議を行い、幼児期の教育について学びを深めている。

令和3（2021）年度からは、頌栄幼稚園の子育て支援の取り組みである「子育てサロン」に学生がボランティアとして参加するプログラムを時間割に組み込む形で実施している。保育内容系の授業では学生が頌栄幼稚園の子どもたちとかかわる時間を設けきたが、令和5（2023）年度からは「基礎演習」の授業でもこうした機会を広げることを予定している。また、「教育実習事前事後指導」および「キャリアへのアプローチ」において、頌栄幼稚園園長から幼児教育の実際や教諭の職務について講義を受けるなど、学生は日ごろから幼稚園や子どもたちを身近に感じながら、教職について学びを深めている。

教育実習は実習を担当する教職員から構成される「実習委員会」が中心となり、学生の指導および園との関係構築に尽力しているが、実習期間中は全教員が園を訪問して学生指導にあたる。個別の配慮や指導が必要な学生に対しては、実習担当教員が実習園の指導担当者と密に連絡を取り合い、必要なサポートを行っている。本学の実習指導のあり方や学生の学修状況を共有し、実習園と協力体制を維持するために実習懇談会も実施してきた。令和6（2024）年度にコロナ禍以降はじめて、懇談会の実施を予定している。

＜長所・特色＞

本学は保育者養成において長い歴史と実績を誇るため、教育実習は本学の教育に理解があり、卒業生が勤務しているなど、信頼関係で結ばれた地域のさまざまな幼稚園において実施することができている。また、系列の幼稚園および認定こども園におい

て、保育科1年次の最初の実習として9回の観察実習を行うなど、実際の子どもの活動や保育の意図を現場から継続的に学ぶ機会を設けている。専攻科においても、地域の幼稚園や保育所で実践的に学ぶ機会が豊富にある。さらに、保育科、専攻科を問わず、頌栄幼稚園の「子育てサロン」にボランティアとして参加する機会も開かれている。

教育実習は学内組織である「実習委員会」が中心となり、実習園や教育委員会と連携しながら進めている。また、実習園への訪問指導は全教員が担い、園からの指導事項および学生の様子についての記録をもとに学内全体で情報共有を図りつつ、学生へのきめ細やかな指導およびサポートを行う体制を構築している。

<課題>

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年度から実習園との実習懇談会が開催できていない。近年、生活面や学習面において学生が抱える課題が多様化かつ複雑化している。こうした状況をふまえ、実習園との協力体制をさらに強固なものとするべく、実習指導のあり方や学生の学びについて共通理解を図るための機会を積極的に設けていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1 頌栄短期大学学校案内
- ・資料3-2-2 実習訪問指導者記録

Ⅲ 総合評価

本学の建学の精神に基づく卒業認定・学位授与の方針（DP）を踏まえ、教職課程を通して育む資質能力を示した学修成果を設定し、その可視化を図っている。学修成果については、より具体的に提示し、教職志望学生と教職員にとって、卒業時に目指す人物像として共有されることが課題である。教職課程の実施においては、カリキュラム委員会が、教務部、自己点検・評価委員会、FD・SD委員会、専攻科会議が密に連携し、保育者養成の質を保持する体制を整備し、教育内容の改善に努めている。本学独自のキリスト教関連科目のみならず、毎週行われる礼拝や行事、式典を通して、一人ひとりを大切にする姿勢を培い、子どもを愛する存在へと成長させることを全学的に重視している点も、今後の取り組みに引き継いでいきたい。

また、歴史を同じくする幼稚園がキャンパス内で隣接している恵まれた環境を活かし、幼稚園との連携を図っている。保育内容系の授業に子どもたちが参画する時間を取り入れるなど、より実践的な教育を実施している。免許・資格を取得している専攻科の学生が、幼稚園の子育て支援プログラムにボランティアとして参加するなど、より幅の広いかわりを実現し、教職課程の充実に反映させていくことが課題である。

入学者受け入れ方針（AP）に基づく選抜方法を行い、教職・保育への意欲、関心の高い学生を受け入れるよう工夫している。入学前課題は専門性を反映した内容とし、グループで課題解決に取り組む「基礎演習」や、「教育・保育基礎実習」などの初年次教育に連結させ、学生の学修意欲の維持と向上を図りつつ、キャリア意識の形成に努めている。しかしながら近年、入学者が多様化する傾向が強まっており、モチベーションの維持が困難なケースも散見されている。学生相談室や学務関連部署との連携を一層綿密に行い、一人ひとりに応じた支援を充実させることが求められる。

キリスト教精神を基盤とする教育課程における教職課程は、理論と実践の往還を重んじ、実習を核として、学生が学修成果を可視化しやすいように系統だて、編成されている。創設以来、130年以上にわたり、神戸の地で保育者養成を続けているものの、中央区中山手キャンパスから東灘区御影キャンパスに移設されて以降の40年余りは、地域との連携について検討の余地を残しており、ボランティア活動やフィールドワーク、イベントの開催などを通じて、地域の人々や施設、多様な機関との交わりを体験できる機会を増やしていきたい。こうした目標は卒業生との連携を深めることでより早く達成に近づき、そのことで、リカレント教育やリスキリングの拠点となっていく可能性を秘めていることも見据えておきたい。多様な取り組みにより学生のコミュニケーション力を高め、課題解決につながる感覚を磨き、より高度な専門性を身につけることのできる均整の取れた教職課程を目指していくことが今後の課題である。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

全国私立大学教職課程協会が作成した手引きに基づき、本学カリキュラム委員会
が中心となり、以下のプロセスで作成を行なった。

- ① 教職課程の点検報告依頼：全国私立大学教職課程協会による報告書記入様式
に従い、基準領域ごとに学内担当者に執筆依頼。
- ② 担当者による執筆：各担当者は点検結果（現状と特色）を報告書に執筆。
- ③ 報告内容の評価：②の内容について、学長（カリキュラム委員長）及び自己
点検・評価委員長、カリキュラム委員が評価し、評価結果（取り組み上の課
題・総合評価）を執筆。
- ④ 報告書の整備：執筆が完了した報告書を自己点検・評価委員会とカリキュラ
ム委員会が連携し、最終調整の上、教授会で報告。
- ⑤ 報告書の公表：教授会での承認を受け、ホームページ上で公表する。
- ⑥ 改善と向上：カリキュラム委員会は「教職課程自己点検評価報告書」を踏ま
えた点検活動を行い、教職課程に関わる新たなアクション・プランを策定。

V 現況基礎データ

法人名		学校法人 頌栄保育学院			
大学名		頌栄短期大学			
学科・コース名		保育科			
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数		95			
② ①のうち就職者数（企業、公務員等を含む）		86			
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数		94			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用+臨時的任用の合計数）		7			
⑤ ④のうち、正規採用者数		7			
⑥ ④のうち、臨時的任用者数		0			
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	5	2	6	1	0
相談員・支援員など専門職員数		0			

法人名	学校法人 頌栄保育学院				
大学名	頌栄短期大学				
学科・コース名	専攻科（保育学専攻）				
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度修了者数	8				
② ①のうち就職者数（企業、公務員等を含む）	8				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数	8				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用+臨時的任用の合計数）	2				
⑤ ④のうち、正規採用者数	2				
⑥ ④のうち、臨時的任用者数	0				
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	5	2	6	1	0
相談員・支援員など専門職員数 0					